2025年度堺第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

KDB データより、健康状態が良い、毎日の生活に満足と答える割合が市全体より多く、主観的健康観は高い傾向が続いているが、健診の受診率が低い状況である。昨年、坂下町会の実態調査で415人中304人から得られた回答のうち、約半数が就労・趣味活動・ボランティアなどの取り組みをしておらず、4人に1人が将来の健康に不安を感じており、高齢者、子供世代の孤立について5人に1人の方が地域課題と捉えていることがわかった。一昨年、坂下町会で町トレプレゼンテーション を実施したがグループ立ち上げには至らなかった。

【課題】

相原町は急坂の多い地形が多く、転倒の危険性がある。公園が徒歩圏内になく、公共機関の施設が少ないため、閉じこもり傾向となる。主観的健康観は高いが介護予防の取り組みに至っておらず介護予防活動の普及啓発と社会的交流の機会の提供が必要である。

(2) 現状

JAGES より、相原町は趣味の会、老人クラブ、町内会・自治会の参加者の割合は1位で最も多く、社会的交流も他地区と比較して最も活発であるが昨年11月に堺市民センターが改修工事に入り市民センターで活動していた自主グループが解散。そのほか、2つの自主グループとひとつのサロン代表者が高齢などの理由で退任。担い手の交代や自主グループが統合している現状である。

【課題】

自主グループ、サロン活動維持が不安定な状況であるため、担い手や活動内容の充実化が図れるよう支援していく必要がある。

(3) 現状

昨年末、相原町で高齢者住宅における火災が2件発生。そのうち1件は住宅密集地で隣接している住宅にも延焼。住民からは火災に対する不安の声が多く上がった。また、武蔵岡団地での独居高齢者が救急搬送に至るケースも相次ぎ、ケアマネジャーからは身寄りのない方や遠方に親族がいる方への対応に関する相談が上がっている。

【課題】

昨年度、地域ケア個別会議を開催し、救急対応について現状の共有をしているが、多職種で緊急事態の対応と連携について相原地域全体で検討し、緊急事態に備える必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		多世代で取り組める介護予防					
計 画	目標						
	自身の健康に関心を持つ地域住民が増え、自ら介護予防活動を行う住民が増える。						
	2025年度の取組						
	①介護予防普及啓発講座を坂下地区で開催し、介護予防活動の普及啓発と自主活動の活性化を支援する。						
	②中相原地区の後期高齢者を対象にアンケート調査及び見守りを兼ねた訪問調査を実施する。						
	③相原小学校で高齢者をはじめ、多世代参加型の介護予防イベントを開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○			○			
活動指標							
①介護予防普及啓発に関するイベントの開催回数							
②中相原地区での実態調査回答率							
③地域介護予防月間イベントの開催回数							
目標値			①2回 ②50% ③ 1回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		自主グループ・サロンの再活性化					
計 画	目標						
	自主グループ、サロン活動が活発化し、既存の活動に加え、口腔・栄養・運動・認知症予防に取り組めるメニューを実施できるようになる。						
	2025年度を取組						
	①町内の自主グループ・サロンへちよい足しメニュー等の伝達とグループ活動の活性化を図る。						
	②いきいき事業部会への定期参加により各団体の状況把握をし、自主グループ交流会、自主グループ情報交換会を開催し、担い手及びメンバーへの後方支援を図る。						
	③オンライン相談拠点を定期開催し、閉じこもり予防と認知症予防を図り、ネットスーパーの活用や地域交流に活かせるように支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○	○	○		
	活動指標						
	①自主グループ・サロンへの訪問件数						
②いきいき事業部会、自主グループ交流会、自主グループ情報交換会の開催回数							
③オンライン相談拠点の開催回数。							
目標値			① 30件 ② 5回 ③ 10回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		もしもの事態に備えられるまちづくり					
計 画	目標						
	地域で緊急事態が発生した際に迅速に協力して対応できる地域づくりを目指す。						
	2025年度の取組						
	①武蔵岡アパートの関係者(JKK、自治会、民生委員、まちだ福祉○ごとサポートセンター堺、堺地域障がい者支援センター、地域の居宅介護支援事業所、生活援護課、保健所、警察等)による現状の情報共有						
	②警察、消防、医療、介護、障がい、民生委員等、多分野の関係機関とのネットワークの構築と救急搬送対応等発生時の円滑な連携について地域ケア推進会議を開催し、対応方法について検討する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○				○	
	活動指標						
①情報共有を目的とした会議の開催回数							
②救急対応に関する地域ケア推進会議の開催回数							
目標値			① 1回 ② 1回以上				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度堺第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1)現状 : エリアの要介護(要支援含)認定率は15.5%で、サービス利用、未利用含めて946名である。対してエリア内の居宅介護支援事業所は4か所でケアマネジャー数は20名と少なく、そのためエリア外の居宅介護支援事業所に紹介するケースも増えている。また多問題を含んだ権利擁護や虐待疑いの相談もあり、重層的な支援のための知識が求められている。

【課題】

- ① 多問題ケースを抱えているケアマネジャーからの相談が増えてきている。
- ② 柔軟な対応力が求められるケースも増えてきている為、支援者側の負担感も大きい。

(2)現状 : 小山ヶ丘地域で民生委員不在の地区が2箇所ある。エリア全体の65歳以上独居世帯は1639名(R5)から1705名(R6)に増加しており、「今は元気だが、これからのことに不安を感じる」という相談も上がってきている。最近では、「屋根の修理業者が家に押しかけてくる」「ブラックリストに名前が載っていると電話が来た」といった消費者被害・特殊詐欺被害に繋がるような内容が増え、本人だけでは解決できず、支援センターが関係機関と連携し、対応することが多くなっている。

【課題】

- ① 民生委員欠員地区では支援が必要なケースの発掘や情報発信が困難である。
- ② 独居世帯増加に伴い自己決定支援が受けられない高齢者が増加する可能性がある。
- ③ 高齢者の消費者被害・特殊詐欺被害が増えていく可能性がある。

(3)現状 : JAGES データより、「認知症発症後の自宅生活希望者割合」は小山ヶ丘小学校区、小山中央小学校区では町田市平均より高く、小山小学校区では低くなっている。また、小山小学校区では「認知症の人も地域活動に参加した方が良いと思う人の割合」が町田市内で最も低く、「認知症の人が、記憶力が低下し判断することができなくなっても、日々の生活について本人が決める方が良いと思う者の割合」や「家族が認知症になったら近所の人に知ってほしいと思う人の割合」も高くはない。また、生活に支障が出ると施設へ入所すべきであるというような声もあり、認知症発症後も住み慣れた家で暮らしたいと考える方は一定数いるが、地域での受け入れには課題があると考えられる。

【課題】

- ① 共生社会のきっかけ作りの場が少なく、参加者も固定化し、地域に広がっていない。
- ② 当事者を介護している家族が支援者や支援センターとつながっていない。
- ③ 認知症になると地域活動をやめてしまう人が多い。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		支え合える街づくり					
計 画	目標						
	ケアマネジャーの後方支援、多職種、多機関との連携を強化し、高齢者が住み慣れた場所で安心して生活を継続することができる地域						
	2025年度の取組						
	①エリア内で相談が増えている多問題ケースの事例検討又は、多問題を抱えたケースへの対応力を向上するための勉強会を行うことで、高齢者の豊かな生活、継続的な支援を図っていく。						
	②ケアマネジャー同士が相談しやすい関係性が築けるよう、テーマを決めてケアマネジャー交流会を開催し、後方支援を行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
						○	○
活動指標							
① 居宅介護支援事業所向け事例検討会又は、ネットワーク会議開催数							
② 居宅介護支援事業所向け交流会の開催数							
目標値			①年2回 ②年2回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		高齢者が安心して暮らせる街づくり					
計 画	目標						
	困った時に相談する相手がいいて、これからの生き方を高齢者自身が決定し実現することのできる地域						
	2025年度の取組						
	① 民生委員不在の小山ヶ丘地区(住基より)の75歳以上戸別訪問実態調査を行う。 ② 町内会単位で、自己決定及び自己決定支援についての啓蒙活動を行う。 ③ 地域住民に向けた消費者被害、特殊詐欺被害の内容や防止策に関する普及啓発講座を開催する。						
	当てはまる分	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	野全てに○	○				○	○
	活動指標						
	① 民生委員欠員地区の訪問戸数 ② 自己決定支援についての啓蒙活動(講話)開催数 ③ 消費者被害、特殊詐欺被害防止の普及啓発講座開催数						
	目標値			①50戸 ②10町内会 ③年1回			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		認知症と共に生きる街づくり				
計 画	目標					
	「新しい認知症観」が広まり、認知症当事者になっても社会的に孤立することなく、仲間と繋がりながら希望をもって自分らしく暮らし続けることができる地域					
	2025年度の取組					
	① D カフェ、認知症イベント、家族介護者教室等 認知症に関する情報について、発信ツールの見直しを行う。					
	② ケアマネジャー等の支援者や事業所、地域へのDカフェ、認知症イベント、家族介護者教室等 認知症に関する情報発信の拡大をはかる。					
	③ 地域に向けて認知症講座を開催する。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携
		○		○		
活動指標						
① 認知症関連情報に特化した広報誌の作成						
② 広報誌の配布先・掲示先の開拓						
③ 認知症サポーター養成講座、介護予防月間地域型イベントの開催回数						
目標値			①年2回 ②2か所 ③年3回			
実績値						
実 績	2025年度の成果					
	2026年度に向けた課題					

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

「2025年度忠生第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

4年目を迎える忠生地区の買い物バス「かしのみ号」は、毎週水曜日に定期運行を継続しており、1日平均25、6名の住民の方が利用している。当日の参加者数によるバス便の調整は住民とバスドライバーで行っているが、住民主体で運営していくための後方支援は必要。昨年暮れより、下小山田町でダイエー3ヶ所、ウエルシア1ヶ所で移動販売を開始した。多いところで18名の利用があり、住民とともにコミュニティーの場所として活用を計画している。

【課題】

函師町、小山田桜台でも、買い物困難、通院困難等の移動支援が必要な地域がある。買い物支援は、地域の特性に合わせた形でアプローチをし、実現に向けて支援していく必要がある。移動支援は、自治会、まちづくり協議会等と協働して地域のニーズの把握を続けながら生活支援団体等の協力が得られるかを含めて、具体化していく必要がある。

(2) 現状

小山田桜台は、高齢化率 49%と担当エリア内で最も高齢化率が高く、エレベーターのない団地のため生活をしていくためには階段の昇降が必要。近隣にあった病院がなくなり通院に不便を感じている。下小山田町は、高齢化率 31.1%と担当エリア内で2番目に高い地区である。田畑が多く体力に自信がある高齢者が多いが、重度化してからでないと相談に来ない傾向にある。

【課題】

小山田桜台では、自主グループや町トレ等の集いの場が少ない。下小山田町では、困りごとを家族内で解決しようとする傾向がある。この二つの地区に、介護予防推進員と見守り相談員等が協働で働きかけを行うことで集いの場の発掘と見守りの周知をする必要がある。

(3) 現状

8050問題やヤングケアラー等、高齢者を取り巻く環境は複雑化している。まちだ福祉〇ごとサポートセンター忠生が開所し、相談できる窓口が増えているが、スムーズな連携ができるよう地域の専門機関との情報交換会は継続的に行っている。地域のケアマネジャーからは、独居で身寄りのない高齢者を救急搬送する際の救急車の同乗、入院時本人に代わって同意を求められることがある、身寄りがないと入所できる施設が見つかりにくい等の相談がきている。

【課題】

地域の専門機関と連携できるための顔の見える関係づくりを継続し、複雑化した相談についてすぐに対応できる体制づくりが必要である。また、消防署や病院、施設等とお互いの出来ること出来ないことの確認や共有をしていく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		移動困難、買い物困難の解決のための働きかけの実施					
計 画	目標						
	移動困難地区、買い物困難地区で解決に向けた仕組みをつくる。						
	2025年度取組						
	①買い物バス「かしのみ号」継続のための後方支援をする。 ②移動困難、買い物困難な地区に自治会、まちづくり協議会等と協働でニーズを把握し、その地区に合った解決方法を話し合う機会をつくる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
①「かしのみ号」実行委員会の開催数 ②函師町出張相談会の開催数							
目標値			①4回 ②1回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		高齢化が進む地域での地域づくり					
計 画	目標						
	エリア内で最も高齢化率の高い小山田桜台と下小山田町で、地域で支え合いながら生活できる環境をつくる。						
	2025年度の取組						
	①小山田桜台商店街で、薬剤師、理学療法士、保健師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員と気軽に相談できる「さくら保健室」の開催						
	②「桜台の暮らしをよくする情報交換会」(支え合い連絡会)の開催						
	③小山田桜台、下小山田町で集いの場を立ち上げる。						
	④自主グループや町トレグループ等へ見守りの理解を深めるために訪問してヒアリングを実施する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
①「さくら保健室」の開催数							
②地域ケア推進会議(支え合い連絡会)の開催数							
③地域介護予防グループと町トレグループの立ち上げ数							
④自主グループや町トレ等で見守りの実態調査数							
目標値			①6回	②6回	③2ヶ所	④5ヶ所	
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		課題の早期解決をするための仕組みづくり					
計 画	目標						
	8050問題やヤングケアラー等複雑化した相談について早期解決するためのネットワークづくりと身寄りのない独居高齢者の課題の共有をする。						
	2025年度の取組						
	①ケアマネジャーや高齢者支援センターが抱える複雑化した家庭問題からくる相談を、早期解決をするための相談機関(警察、保健所、障がい者支援センター、子ども家庭支援課、生活援護課、社会福祉協議会等)との情報交換会の開催						
	②身寄りのない独居高齢者を抱えるケアマネジャーや高齢者支援センターにおいて、救急車への同乗や入院、入所同意等を求められるケースがあることから、消防署、医療機関、施設等関係機関と話しあうためのヒアリングを行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○				○	○
活動指標							
①関係する相談機関との情報交換会の開催回数							
②消防署、医療機関、施設、ケアマネジャー等への実態把握数							
目標値			①4回 ②1ヶ所				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度町田市忠生第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

JAGESより低所得者割合、経済的不安感がある者の割合、この1年間に経済的な困難が増した者の割合が市内12センターの中で最も多い。日々の食事にも困り、フードバンク利用の相談や、生活保護申請の支援を要するケース等が後を絶たない。

2024年度、虐待報告書件数は6件、虐待と判断された件数は5件に上る。養護者による虐待だけではなく、知人による金銭搾取がセンターで把握しているだけで3件あった。

消費者被害に遭う地域住民も、増加傾向となっている。

【課題】

高齢者に関連する権利侵害が多様化しているが、適切な支援へつながるまでに時間がかかり、その間をフォローする仕組みがない。どのようなことが高齢者虐待に該当するのか等、地域住民や居宅介護支援事業所への情報提供が不足している。

(2) 現状

エリア内の高齢化率は35.3%であり、高齢者のみ世帯の割合も高い。地域とつながりを持つことができない高齢者が多く、安否確認時に死亡しているケースが増えている。

自治会は34か所あるが、見守り体制が構築されている自治会は5か所に留まっている。

見守る側の高齢者が短期間で見守られる側になる事も少なくない。

また、困りごとは多くあるが介護保険では担うことができず、インフォーマル資源がある場合も、様々な制約や経済的理由から利用できない住民が多い。

【課題】

多世代の地域住民及び関係者が主体となった見守り体制や、困りごとを相談できる地域資源が不足している。

(3) 現状

エリア内の高齢化率は35.3%であり、単身世帯も増加傾向。フレイル状態に陥る高齢者が増え、介護保険認定申請は多い月で79件、予防プランは月約580件となっている。

JAGESより地域活動参加率が低く、要支援、要介護認定者数が増加している。通いの場は43カ所と緩やかに増加しているが、15,000人弱の高齢者人口をカバーできていない。

また、閉じこもり、プレフレイル、口腔機能低下、残歯数19本以下の者、1日の食事回数が3回未満の者の割合が市内12センターの中で最も高い。

【課題】

フレイル状態にある人、要支援認定者、要介護認定者が増加している。

高齢者人口に対して通いの場が少なく、交流する機会が少ない。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		権利が守られ、誰もが安心して生活できる地域を目指す。				
計 画	目標					
	地域に対して広く権利擁護に関する普及啓発を行い、地域住民の意識向上を図る。					
	2025年度の取組					
	① 例年、高齢者虐待と判断されるケースが後を絶たないため、地域住民や居宅介護支援事業所に向けた虐待防止に関する講座を開催し、予防や早期発見につなげる。					
	② 支援センターだよりで、虐待防止や消費者被害防止に関する特集を組み、広く住民に情報提供する。					
	③ 家賃滞納により住まいを失うことなく、高齢者の安心安全な生活を守るため、関係機関との情報共有を通して、地域課題の抽出を行う。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携
		○				○
活動指標						
① 地域住民、居宅介護支援事業所向けに虐待防止に関する講座を開催。						
② センターだよりで特集を組む。						
③ -1 UR、JKK 等との情報交換会を行う。						
④ -2 関連した地域ケア個別会議もしくは推進会議を開催する。						
目標値			① 年2回 ② 年2回 ③-1 年3回			
			③-2 年3回			
実績値						
実 績	2025年度の成果					
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)					
	2026年度に向けた課題					
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)					

取組名(2)		大型集合住宅を含む周辺地域特有の課題解決に向け、多世代の住民が主体となり、関係者がサポートしていく支援活動を増やす。					
計 画	目標						
	地域住民が主体となり、地域の関係機関の協力のもと、地域や自治会の枠を越え、持続可能な支援チームを共に作り上げる。 これらの活動により見守り体制を増やし、高齢者の「ちょっとした困りごと」の解決や小さな変化に気が付くことができる。						
	2025年度の取組						
	① 持続可能な見守り体制を作るために、地域住民の他、地域にある学生等の学校関係者、商店会、スーパーなど地域の多世代の関係者に見守りに関するアンケートを行い、見守りに関心がある住民や関係者を抽出し、話し合いの場を設け、見守り会議開催につなげる。 マンパワーだけでなく、民間が提供しているICTを活用した見守りに関する情報発信を行うとともに、UR、JKKとの連携を継続する。						
	② 地域住民、町内会、自治会、民生委員、UR、JKK、介護事業者、ケアマネジャー等の関係者が参加検討し抽出された「困りごとを解決する地域資源」を材料に、実現及び持続可能な地域資源を具体的に検討する。 ちょっとした困りごとを解決できる支援者チームの立ち上げを目指して、介護保険制度に多くを頼らなくとも地域での暮らしを続けることができるような体制づくりを推進する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○	○		
	活動指標						
	① -1 重点地区(境川住宅、木曾住宅、山崎団地)の住民及び多世代の関係者にアンケートをまずは各地区1回行い、見守りに関心がある関係者を抽出する。 ① -2 見守りに関心がある住民や関係者との会議、もしくは見守り会議を開催する。 ② 地域ケア推進会議を開催する。						
	目標値			① -1 重点地区で、年合計3回 ① -2 年2回 ② 年2回			
実績値							
実 績	2025年度の成果						
績	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		フレイル予防・介護予防の普及啓発を行い、健康づくりに取り組む。				
計 画	目標					
	① 地域住民らが集まり、主体となって介護予防を継続して行うことができる自主グループの立ち上げ(特に男性中心)支援を実施。社会資源の更新、情報発信を行う。					
	② 誰でも参加できる講座、イベントの企画、実施、地域住民、多世代の交流を図る。					
	2025年度の取組					
	① 自主グループ活動が乏しい地区に、地域住民らが集まり、主体となって介護予防を継続して行える町トレ、自主グループの立ち上げ支援(特に男性中心の自主グループ)の企画、実施。					
	② 介護予防普及啓発講座、ちよい足し学習プログラムの継続。					
	③ 木曾あんしん相談室での介護予防月間地域型ミニイベントの企画、開催。					
	④ オンライン出張相談の周知、開催。					
	⑤ 地域交流の企画、実施(保育園との交流会、ミニ講座、イベント、品物の交流)。					
	⑥ 介護予防サポーター養成講座の趣旨や開催予定を広く周知し、参加者らを通してキーマンとなる地域住民を発掘する。					
当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○		
活動指標						
① ～ ⑥とも年間企画、実施回数を指標とする。						
目標値			① 5回	② 3回	③ 1回	④ 5回
			⑤ 5回	⑥ 3回		
実 績	実績値					
	2025年度の成果					
	2026年度に向けた課題					

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度鶴川第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

KDBデータより、運動機会・習慣のある高齢者が市平均より低く、後期高齢者は外出機会も低い。その一方で検診・健康診断受診率は市平均より高い。JAGESデータからはボランティア活動、趣味の会などの活動参加者が市内ワースト1位であり、低栄養割合も高い現状がある。なかでも金井・金井ヶ丘地区は高齢者人口に対して不足している通いの場が金井ヶ丘で5か所、金井で3か所とエリア内で最も不足している地域である。

【課題】

健康意識は高いものの、フレイル予防の理解・知識が十分でなく、社会資源の不足や交流機会を活用できないことで閉じこもりや自己完結型の生活に陥っている。また生きがいや楽しみづくりの機会喪失へと繋がっている。

(2) 現状

JAGESデータより『認知症になった際に近隣に知ってほしい』、『避難訓練に参加している』、『災害時対応を家族や知人と話し合っている者』の割合が市内ワースト1位である。2024年度大蔵町での実態把握時に行ったアンケート調査では、センター認知度が4割程度であり、認知症当事者との関わりない人が7割を超えていた。また大蔵、金井、金井ヶ丘地区はあんしんキーホルダー登録数がエリア平均より低い現状もある。

【課題】

自分を理解してもらったり、困った際に周囲に頼ったりすることに抵抗を感じる方が多いことから、地域との繋がりや助け合いの意識が低下し、さりげない見守り、防犯、防災体制の脆弱化へと繋がるリスクがある。

(3) 現状

JAGESデータより『情緒的(心配事や愚痴)サポート提供者』割合が市内ワースト3位である。またセンター内での相談内容、地域ケア個別会議、虐待ケース等の相談分析では年々、複合的な課題や家族間トラブルを抱える世帯が増加し、高齢者のみならず家族や同居者の支援も必要なケースが増えている。相談内容が複雑で丁寧な支援方法が求められる一方で支援者や社会資源が不足する現状がある。

【課題】

重層的支援が必要な世帯が増える中、支援者不足などの理由から十分な支援体制の構築に時間や労力を要することがある。従来から行っている医療と介護等の関係機関との連携の他、住民の力やICTを活用した現状に即した体制を構築していく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		健康づくり、生きがいづくりを推進し社会参加を促す。					
計 画	目標						
	フレイル予防に必要な取り組みを住民が理解し、生きがいや楽しみを感じて社会参加ができる。						
	2025年度の取組						
	①金井ヶ丘地区で町トレグループを立ち上げ、通いの場を増やす。 ②新たな介護予防サポーターを養成し、地域での活動機会を増やして支援する。 ③地域ケア推進会議栄養部会作成の高たんぱくレシピの活用促進を図る。 ④自主グループへちよい足しプログラム学習会を実施し、活動内容の充実を図る。 ⑤短期集中型サービスを利用して地域で活動することや自身で行う取り組みへと繋げる。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○	○	
	活動指標						
	①町トレスタート応援講座実施回数 ②新規サポーター養成数、サポーター活動人数 ③レシピ配布数④ちよい足しプログラム学習会実施回数⑤短期集中型サービス利用者数						
	目標値			①1回②5名、200名(延べ年間人数)③500枚④2回⑤5名			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)	地域でのつながりや支え合いの大切さを知ってもらう。					
計 画	目標					
	住民やセンターが必要と考える情報を適切、確実に発信し届けていくことで住民が地域で支え合うことの重要性を理解できる。					
	2025年度の取組					
	①センターの役割を理解してもらい適切に活用してもらうために地域の会合や講座実施時等にPR活動を行う。					
	②広報誌やホームページでの情報発信を行う。					
	③地域の防災訓練(自治会町内会、福祉施設等)の参加を通じて、地域の実情や防災知識を住民や医療・介護事業所等向けに情報発信し、相互理解を強める。					
	④大蔵町、金井・金井ヶ丘地区であんしんキーホルダー登録会を開催する。					
⑤大蔵町で認知症サポーター養成講座を開催する。						
当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
○	○	○			○	
活動指標						
①PR活動回数②広報誌発行回数、ホームページ更新回数③情報発信回数④登録会実施回数⑤養成講座実施回数						
目標値			①15回②4回発行、12回更新③2回④3回⑤1回			
実績値						
2025年度の成果						
2026年度に向けた課題						
実 績						

取組名(3)		住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制を強化する。					
計 画	目標						
	現在の支援体制に地域住民の力やICTなど既存の資源を加えて包括的に支援する体制の強化を図る。						
	2025年度の取組						
	①地域版認知症サポーター交流会や自主グループ運営情報交換会を開催し、地域で活動する住民同士のつながりを作る。						
	②あんしん連絡員、民生委員、見守りネットワーク見守り員、地域事業者等を対象とした見守り交流会を開催し、つながりを強化するとともに住民の見守り活動の支援を行う。						
	③成年後見制度の利用・申し立て支援を行う。鶴川地区社会福祉協議会、〇ごとサポートセンター鶴川と連携し支援者同士の情報交換を行う。						
	④臨床心理士相談を活用して家族支援を行う。						
	⑤ICT活用(MCS、ケアプラン連携システム等)を促進し、支援者の負担軽減を図る。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○				○	○
活動指標							
①地域版認知症サポーター交流会開催回数、自主グループ代表者交流会開催回数 ②見守り交流会開催回数③申し立て相談・支援件数④臨床心理士相談件数⑤ケアプラン連携システム利用事業所数							
目標値			①各1回ずつ②1回③5件④6件⑤7事業所				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度鶴川第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

2024年度の支援経過では虐待ケースが21名あり、うち5件が死亡や施設入所で終了している。また、サービス未利用者や気になるケースが48名存在し、その中の16名はCMへ引継ぎ、見守り体制が確立されている。一方で、継続確認が必要なケースは鶴川・能ヶ谷地区に多く、独居や認知症、経済的困窮、老々介護など、複合的な課題を抱えている。他機関連携が進んではいるものの、連携のばらつきや対応の遅れがあり、複雑な課題への解決が追いついていない現状がある。

【課題】

孤立や経済的困窮、精神疾患、認知症などの複合的・多様な課題が存在している。また、地域資源や見守り体制が十分に整っておらず、支援対象者の増加に対応しきれしていない。そのため、他機関との連携を図り、地域全体で見守るネットワークを構築し、機能させる必要がある。

(2) 現状

真光寺3丁目公社住宅

- ・築47年、全7棟、エレベーターなしの3階建て。137世帯中90世帯が自治会加入している(2年前の情報)。自治会役員は17人。
- ・真光寺3丁目の高齢化率は32.31%(2024.12月時点)。公社住宅では、後期高齢者割合が高く、単身世帯と後期高齢者のみ世帯が64%。あんしんキーホルダーの保有率は18.7%。個別ケースでは、虐待ケースや金銭管理が困難な方の相談があった。
- ・公社住宅の集会所は自治会の集まり以外利用されていない。

【課題】

- ・支援センターとの繋がりが希薄である。

(3) 現状

三輪地区の高齢化率は約21%で、圏域内では比較的低い地域。以前から賃貸アパート住む単身高齢者に対する相談が多い。2023年に実施した70歳以上単身者へのアンケートにより、自治会未加入の高齢者が多く、地域情報が得にくい状況にあると実態が判明。数年前より地域ケア会議を実施。自治会との接点がない高齢者への対応に関する声上がる。災害時に接点のない高齢者への対応が心配との意見あり。2024年度の会議では、民生委員や駐在所職員から「気になる高齢者の情報共有再開」が提案される。

【課題】

接点の少ない単身高齢者が適切な相談先を知らないために、災害時や緊急時に対応が遅れる可能性がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		複合的な問題を解決するネットワークを構築する。					
計 画	目標						
	地域の社会資源を共有し、住民主体のネットワークづくりを提案する。職員全員が連携方法を学び、他機関との連携を強化する。						
	2025年度の取組						
	① 他機関との連携会議(鶴川圏域相談機関連携会議、福祉情報交換会)に職員が分担して参加し、内容をセンター内で共有する。						
	② 能ヶ谷や鶴川など気になる地域に出向き、見守り講座、認知症サポーター養成講座など開催し見守る意識を高め地域づくりを推進する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○	○	
	活動指標						
	① 鶴川圏域相談機関連携会議の開催回数						
	② いままで関わりが薄い地区の自治会や町内会で行う、見守り講座の実施回数						
目標値			① 年3回以上 ② 年1回以上				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		真光寺3丁目公社住宅の現状を把握する。					
計 画	目標						
	・集会場所でイベントを開催し、住民の情報収集と支援センターの周知ができる。						
	2025年度を取組						
	① JKK スマイルアシスタントと自治会と打ち合わせを行う。 ② 単発の講座(介護予防普及啓発講座、見守り講座を検討)を開催する。 ③ 講座開催時にアンケートを実施する。(集会所で継続的に活動できるグループを立ち上げるために、どんな活動内容が良いか検討する。) ④ 支援センターの広報を行う。						
	当てはまる 分野全て に○	見守り ○	認知症	生活支援	介護予防 ○	医療介護連携 ○	権利擁護 ○
	活動指標						
	① 打ち合わせ回数 ② 講座開催回数 ③ アンケートの実施回数 ④ 広報誌の配布数						
	目標値		① 1回 ② 1回 ③ 1回 ④ 80部/年				
	実績値						
	実 績	2025年度の成果					
2026年度に向けた課題							

取組名(3)		三輪地区での単身高齢者に対する見守りの方法を検討する。					
計 画	目標						
	支援センターの存在をしっかりと。困った時に早めに関係機関に連絡が取れるネットワークを構築する。						
	2025年度の取組						
	① 民生委員と駐在所職員の情報共有の場に同席をして、情報交換を行う。 ② 民生委員、駐在所職員と気になる高齢者宅に同行訪問を行い、支援センターの情報を届ける。 ③ 地域内にある、高齢者が気軽に立ち寄りそうなところ(コンビニ2件、スーパー1件、お祭りなど)で出張相談などができるところが無いか町内会を通して探す。 ④ 近隣のさりげない見守り方法を知ってもらうために自治会、町内会などに見守り講座を開催する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○			
	活動指標						
	① 情報交換会の参加回数 ② 民生委員または駐在所職員との同行訪問件数 ③ 町内会を通して新たな場所での出張相談実施場所数④開催できた自治会老人会数						
	目標値			1回以上 ②3件 ③1か所 ④1ヶ所			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度町田第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

原町田・中町エリアはある程度築年数が経った大型オートロックマンションが多く、住民からの相談が増加している。プライバシー保護意識が高い方が多く、情報が得られにくく、親族情報がなく逝去後の対応に困った機関より相談が入ることが増えた。認知症独居高齢者が開錠できず訪問型サービスの提供に支障がある、安否確認が困難など、マンション特有の問題も多い。4か所で継続しているマンションの見守り支援ネットワーク定例会においても活動のし辛さ・担い手不足の声が聞かれる。

【課題】

- ・マンションにおける円滑な福祉サービスの利用促進や関係機関との連携体制構築により必要な方へ支援が届く基盤作りが必要である。
- ・マンション内でのさりげない見守り意識の高揚を図る働きかけが必要である。

(2) 現状

KDB データ(75歳以上)(中町)では運動の習慣化が出来、転倒も減少し、物忘れも改善している。しかし社会参加は未だに低く、交流機会も少ない。体重減少や脂質異常が増えている。JAGES データ(エリア全体)でも、フレイル状態が多く、鬱も多い。通いの場では、気軽な参加者としてなら参加するが、面倒な企画運営はしたくないという考えが多く、継続的な活動の支障となっている。

【課題】

- ・後期高齢者に対して社会参加を促し、通いの場の普及啓発を行う必要がある。
- ・介護予防活動(特に運動)の重要性を伝え、活動開始・継続の支援が必要である。
- ・地域活動の継続のためには活動をサポートする新たな担い手を増やす必要がある。

(3) 現状

2か所で開催している認知症カフェ参加者が2023年度計143名→2024年度(2月まで)266名と増加している。当事者の自己表現の場として、介護に悩む介護者支援の場としての充実が望まれている。カフェや家族会への男性参加者が少ない、ヒヤリハットケースでは男性介護者の知識不足や孤立が要因と思われるケースが多い。エリア南部の方から家族会に参加しづらいとの声がある。

【課題】

- ・カフェ充実を図るため、更に周知と当事者・家族へ参加を促進する。
- ・エリア南部の方が家族会に参加しづらい。
- ・男性介護者は介護の悩みを抱え込みやすい。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		オートロックマンションに暮らす高齢者の課題抽出及び改善の検討					
計 画	目標						
	オートロックマンションで生活する高齢者に対し、適切な医療・介護サービスが提供できる体制を検討する場を持つ。高齢者の孤立を防ぎ、支援が必要な方の発見につながるよう住民の見守り意識の向上を図る。						
	2025年度の取組						
	① オートロックマンション住民からの相談を分析し特有の課題を抽出する。 ② ケアマネジャーの協力を得て支援に係る課題について意見を募る。 ③ マンション管理人や管理会社の情報を収集する。 ④ ①②を基に管理人・管理会社・民生委員・ケアマネジャーなど関係機関との協議の場を持つ。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○			
	活動指標						
オートロックマンションに暮らす高齢者特有の課題について検討する地域ケア推進会議の開催回数。							
目標値			1回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)		フレイル予防の普及啓発と新たな担い手の発掘					
計 画	目標						
	介護予防・フレイル予防の普及啓発活動を行い、希望する方が参加・継続できるよう社会資源の整備が進む。						
	2025年度の取組						
	<p>○社会資源冊子の更新と地域への配布を行う。</p> <p>○中町で不足している文化的な活動のグループを立ち上げる講座を開催する。</p> <p>○既存の自主グループの継続支援として・町トレ測定会・自主グループ運営情報交換会を行う。</p> <p>○介護予防サポーター養成講座の広報を広く行い、新たなサポーターの養成を行う。</p> <p>○総合相談やイベント・地域住民のロコミ・現サポーターの情報から新たな担い手を発掘する。</p>						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○		
	活動指標						
	<p>① 自主グループの立ち上げ数</p> <p>② 介護予防サポーター養成講座参加者数の内、新たにエリア内の活動に繋がった人数</p>						
目標値			① 1グループ ②2名以上				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		認知症当事者や家族が相談しやすい場の充実を図る。					
計 画	目標						
	認知症当事者や家族介護者が気軽に相談出来る場づくりを行うことにより、支援と繋がるきっかけを作る。						
	2025年度の取組						
	○ケアマネジャーやサ高住等へカフェ・家族会の周知を促進する。 ○カフェの充実を図るため前年度アンケート結果を反映させて企画を行う。 ○カフェ・家族会・臨床心理士相談等の合同開催等により連動を図る。 ○出張カフェの開催により、これまで参加できなかった方へアプローチを行う。 ○一人で介護を担っている男性介護者のニーズ調査を行う。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○				
	活動指標						
① 出張カフェの開催回数 ② 男性介護者のニーズ調査の実施回数							
目標値			① 1回 ②1回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度町田第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

支え合い活動が減り、KDB データでは本町田・藤の台圏域内の手段的・情緒的サポートの受領者、提供者の割合が低い。結果として社会参加やたすけあいのソーシャルキャピタルは低く、幸福感の低下の要因の一つになっている。

【課題】

- ・情報や知識が共有されず、生活上の気づきや工夫を得にくくなる
- ・生活上の困難なことを補い合う事ができず、住民同士の「関係の質」が高まらない
- ・住民の生活防御力が低下し、詐欺等の被害に合うリスクとなる
- ・相互の信頼や協力が得られず、治安・健康・幸福感などに良い影響が得られにくい

(2) 現状

「周囲に迷惑をかけたくない」「知られたくない」などの理由から、認知症の方が引きこもるケースが多い。昨年からはじめた月1回のユニカール交流会は、認知症の方やご家族、障がいのある方、サポーター、子や孫などの多世代が参加され、のべ参加人数は100人を超え交流の機会となっている。

【課題】

- ・まだ出会えていない方へ「ユニカール交流会」の周知
- ・参加者が会場周辺居住の方に限られている
- ・参加希望者を受け入れるための、サポート、スペース、用具が不足している
- ・顔は分かるが名前が分からない関係性

(3) 現状

総合相談において、複数の課題を抱えるケースが多い。家族がそれぞれ、貧困や引きこもり、介護など複数の問題を抱えており、それが家族間で複合し、アルコールやギャンブル依存症、虐待などの、さらなる問題を引き起こして悪循環になっている。

【課題】

- ・同居の若年層の支援に対してはアウトリーチを含め対応できる関係機関が不明瞭
- ・金銭的理由から、介入拒否やサービス導入等での支障が多い
- ・地域権利擁護事業、成年後見制度の利用に繋がるまで時間を要するため、ケアマネジャーや介護保険サービス提供事業所の負担が大きい

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		支えたい・支えられたい住民をつなぐ取り組み。生活支援団体「本町田たすけあい」の立ち上げ育成支援					
計 画	目標						
	互助活動により情緒的・手段的サポートができ、住民同士の「関係の質」が高まる。結果として圏域内で暮らす高齢者の安心と幸せ感が高まる。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・支えたい人と支えられたい人をつなげる ・住民の互助活動へ関心を高める ・登録会員へ地域の見守りの意識を育成する 						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○		○			
	活動指標						
<ul style="list-style-type: none"> ① 広報誌とホームページで活動を紹介する ② 定例会に出席し助言する ③ 登録会員向けに見守り講座を開催する 							
目標値		① 広報誌とHP 各1回 ②10回 ③1回以上					
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)							

取組名(2)	認知症の方と多世代をつなぐ取り組み。「ユニカール交流会」活動を強化する						
計 画	目標						
	認知症の方とそうでない方が活動を通して一緒に笑い、褒め合い、励まし合うなど、感情を共有する。その結果、認知症への先入観を超えた個々の関係性が築け、その関係性の数が圏域内に増える。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユニカール交流会」の日曜日開催を継続する ・1回の受け入れ人数を増やす ・圏域内の遠方からも参加できるようにする ・参加者同士が相互に名前呼び合う工夫 ・参加者同士の交流の質を高める 						
	当てはまる分野全てに○	見守り ○	認知症 ○	生活支援	介護予防 ○	医療介護連携	権利擁護
	活動指標						
	<p>① 認知症の方、MCI、SCIの方の参加延べ回数</p> <p>② 認知症でない方の参加延べ回数</p>						
目標値			① 60回 ②150回				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		相談者が抱える課題と専門職をつなぐ取り組み。住民の生活を支える体制の強化					
計 画	目標						
	相談者が抱える課題について適切に専門職につなぐ。それぞれが専門性に基づき支援を行うことで、複数の問題を抱える家族が課題を解決し、可能な限り住み慣れた地域で希望にちかい形で暮らし続けることができる。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア地域会議の開催 ・ケアマネジャー支援 ・専門職の連携強化のための情報交換会 ・虐待ケースの対応の強化 						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
			○		○	○	○
	活動指標						
	① 個別ケア会議の開催数 ② 専門職の連携強化のための情報交換会および勉強会 ③ 虐待ケースの評価日の設定とモニタリングの実施						
	目標値			① 24回 ②4回 ③100%			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度 町田第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

東玉川学園地区は、約40年前戸建て分譲地として開発されており医療機関や商店が無い閑静な住宅地である。4つの丁目があり自治会は5つ存在する。人口動態でみると、人口は当エリアの約11%でここ10年ほぼ増減横ばい状況。高齢化率は29%とエリア内平均27.7%より高い。KDBによると主観的健康観や受診率・社会参加など市平均より高く、実際に見守り活動など住民の意識は高い。一方現状としては、認知症の相談が増加しており、また集う”場“がこすもす会館しかなく遠い、坂と階段が多く買物や外出が困難になるなど生活のしづらさがあり、高齢者のフレイルリスクが高くなる。

【課題】

- ・スーパーなど買い物に行くところがない、集える会場が遠い、階段や坂が多い。
- ・高齢化が加速しており住民が外出できる場や目的が必要と考える。

(2) 現状

2024年度、もの忘れ相談14件(稼働率50%)とコンスタントに相談があり、また臨床心理士による介護者相談の全数が認知症状に伴う相談であり、総合相談等でも認知症ご家族の相談が増えている現状がみられている。また当エリアでは、地区社会福祉協議会での介護者の集いなどの既存活動が盛んであり、センターとしても連携協働し情報や知識の普及啓発などに努めている。そんな中、昨年、認知症の方の家族から「家族同士でもっと話したい」という具体的な声が上がっていた。

【課題】

- ・集いたいという希望がある認知症の方の家族が交流できる場がない。

(3) 現状

南大谷地区は、玉川学園エリアとは生活圏が異なり、広い面積を持つがバス路線など交通機関が少ない。人口は当センターエリアの約37%を占めており、毎年微増であるが人口増がみられている。高齢者数はほぼ横ばいであるが、比率にするとエリア内では平均より高齢化率が低い。JAGESから地区特性を見ると、主観的健康観やIADL低下割合、認知症機能低下割合が低い。一方、自主グループ参加意向がやや低いという一面もみられている。現状は、自主グループ活動が主としてさくら会館と都営団地集会所の2会場に集中している。そのことから、自宅近くに活動できる場が少ないことが、自主活動参加意向が低い要因と考えられる。

【課題】

- ・住民が集える”場“が少ない。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		東玉川学園地区住民の生活支援に取り組む。					
計 画	目標						
	住民へのヒアリングにより生活上のニーズや想いの把握に努め、既存の社会資源の十分な活用を図るとともに、新たな社会資源の発掘(創出)を検討していく。						
	2025年度の取組						
	東玉川学園で活動している自主グループ(町トレ、他)や介護予防サポーター、認知症サポーター、あんしん連絡員、そして在住している介護予防ケアマネジメント対象者に訪問調査やアンケートなどにより生活実情を把握する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	① 住民への聞き取り数						
	目標値			①年間100名			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(3)		介護予防・健康づくりに取り組む。					
計 画	目標						
	南大谷地区で、新たな会場を開拓し、集いの場を創出する。						
	2025年度の取組						
	① 社会資源(施設等)を活用して介護予防教室プレ講座を実施する。 ② 地域介護予防教室を実施し、住民主体による集いの場としていく。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○		○		
	活動指標						
① 介護予防教室プレ講座の開催数 ② 新しい自主グループの立ち上げ数							
目標値			① 年間1回 ②1グループ				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度南第1高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状 認知症に対する理解向上の推進、新しい認知症観の普及

2024年度の講座後アンケートから認知症に関して地域の関心は高いが、認知症にはなりたくないとの負のイメージが強いことがわかった。病気の正しい理解が不十分で「我がこと」になるにはまだ時間がかかる状況。さらに、家族介護者交流会等から出た意見から、認知症の方の介護をする家族の心理的負担が多いことが伺える。

【課題】

認知症と共に生きる街をつくるには、「新しい認知症観」を時代と共に推し進め、関心がある人を増やし「我がこと」として理解度を引き上げていくことが必要。家族介護者への支援に関しては、どのような内容、開催方法であれば介護ストレス、負担が減るのか引き続き関係者からも意見を徴収し、模索していく必要がある。

(2) 現状 閉じこもらない、地域デビューの促進

エリアの中でつくし野は最も高齢化率が高く、自治会加入者、老人クラブ参加者も減少している。山坂が多く、拠点に行くまでの移動にも苦慮し、関係者からも閉じこもり高齢者が増加しているとの声が上がっている。また、JAGESによると、地域特性として近隣の活動への参加意欲が低く、外出できる方と閉じこもりの方で環境格差が生まれていることが伺える。その一方で、講座等で実施したアンケートによると介護予防に関心があるなど、健康意識は高い。

【課題】

生活圏の中で自分に合った活動への参加に繋がるような案内が必要。また、南市民センターや原クラブ会館など地域の活動拠点が改修工事等の影響で使用できなくなるため、二年ほど徒歩圏内の活動拠点が減少することも課題。それらを拠点としている老人クラブは地域活動の要でもあることから、活動の後方支援を積極的に行う必要がある。地域の強みを生かしたアプローチが必要である。

(3) 現状 安心して暮らす、支え合うネットワークづくり

前年度、各地域でそれぞれのネットワークを再度繋ぎ合わせ、見守り合う体制の構築を行ってきたが、高齢化率の高いつくし野地域において、自治会、団体組織の高齢化も顕著で互いの見守りができなくなってきた。また、その一方で身近で発生した特殊詐欺、強盗などの事案によりエリア内の住民の防犯意識が高まっている。

【課題】

引き続き高齢者だけではなく、多世代において支え合う仕組みが必要。地域、民生委員と居宅介護支援事業所、介護サービス事業所と連携して防犯の意識を高めることが求められる。関係機関と連携して、地域課題の解決に向けて、支え合い、助け合える仕組みを作る体制と一緒に考えていく。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		認知症に対する理解向上の推進、新しい認知症観の普及					
計 画	目標						
	認知症を排除せず、様々な「認知症と共に生きる」形を普及させる。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地区内の介護サービス事業所と連携し、D カフェやオレンジみなみ風の定例化を通じた居場所づくり ・認知症当事者の想いを取り入れた南第 1 版のアイステートメントかるたを制作、普及する。 ・つくし野地区にてより専門的な認知症の知識を深めるために鶴川サナトリウム病院に講師依頼し認知症普及啓発講座を実施 ・全域で若年性認知症当事者の生の声を聴く認知症サポーター養成講座を実施 ・家族介護者交流会にて昨年度要望の多かった家族ストレスの講座を実施 						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○	○	○
	活動指標						
	① 認知症普及のための居場所 参加数(延べ数) ② 認知症に関する講座等開催数と参加者数 ③ 家族介護者交流会、教室参加数						
	目標値			①50名②3回と50名③30名			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)	閉じこもらない、地域デビューの促進						
計 画	目標						
	高齢化率の高いエリアで実態を把握。閉じこもり高齢者に向けて楽しくフレイル予防ができるよう促していく。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別訪問、地域のお祭りの参加等を通して実態を把握するアンケートを実施。 ・二次元コード、IT ツールなどの講座を行い、オンライン弱者が時代の波に乗れるように支援を行い、閉じこもり予防に繋げる。 ・閉じこもり高齢者へつくし野お散歩マップを配布し、チームオレンジのひとつである「オレンジみなみ風」と連携したウォーキングにて外出の機会をつくる。 ・介護予防月間地域型イベントを通じて住民の地域活動への参加を促す。 ・広報誌を活用して講座や出張相談会等で配布し、老人クラブの活動紹介を行い、閉じこもり高齢者の参加に繋げる。 						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○	○	
	活動指標						
	<ul style="list-style-type: none"> ① アンケート実施数 ② 介護予防普及啓発講座、介護予防月間地域型イベントへ初めて参加した参加者数 ③ つくし野マップを活用したウォーキング参加者数(マップ活用) 						
	目標値			①100件 ②20名③20名			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		安心して暮らすための支え合うネットワークづくり					
計 画	目標						
	ネットワークを密にして支援が必要な方を取りこぼさないようにする。						
	2025年度の取組						
	<ul style="list-style-type: none"> ・寄席などを活用して老人クラブ等地域の団体に見守りの講座を実施。 ・強盗や特殊詐欺などの被害が多数あり、対応策について啓発し、地域の見守りの芽を育てる。全域の見守り関係者と第2回目の交流会を実施。南第1エリアの見守りについて一緒に考えていく。 ・権利擁護の普及啓発講座を実施し、金銭面においても本人の不利益にならないような支援の仕組みを学ぶ。 ・民生委員やケアマネジャーと情報交換会、勉強会を実施して連携を深める。 ・老人クラブや医療機関、地域の事業所等の地域資源を訪問、連携して地域で支え合える仕組みを模索する。 						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○	○	○
	活動指標						
	① 見守り講座、交流会参加数 ② ネットワークに関する会議の参加数 ③ 老人クラブ、医療機関、事業所の訪問数						
	目標値			① 40名②10回③10か所			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度南第2高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状 重点地区①南成瀬 1～3 丁目

(以下、JAGES や KDB データ等より)

成瀬駅周辺に位置し、公共交通機関の利便性が高い。坂の多い地域で、地域住民は関節や筋肉の疾患を持つ人が目立つ。90 歳代以上の高齢者が増加し、かつて地域で行われていた「町トレ」は、参加者の高齢化とリーダー不足により終了した経緯がある。2024 年度に実施した見守り普及啓発講座や地域支え合い連絡会は参加者が少ない状況であったことから、センター主導や一部の代表者によるテーマの設定ではない形が求められているのではないかと仮説を立てた。

【課題】

高齢化と坂の多い地域性から、今後近隣で実践できる介護予防活動の必要性があるが、広く意見を収集できていないこと。

(2) 現状 重点地域②金森東 1 丁目 (高ヶ坂都営住宅)

同都営住宅では民生委員が欠員しておりセンターへの相談も他地域に比べ少ない。シルバーピアの棟には LSA が配置されているが、別棟の住民の相談窓口としては機能していない。独居の高齢者が多い。近隣に商店やスーパーがなく、生活利便性に課題を抱えている。また生活習慣病の罹患者が多い一方で、長時間の運動習慣を持つ住民は少ない状況である。地域住民から「認知症」や「精神疾患」などに関する相談が比較的多い。

【課題】

認知症や精神疾患などによりコミュニケーションなどに支障があり、住民同士の関係性が崩れるリスクが高い。生活利便性の低さから、将来的に住民は生活困難を抱えるリスクが高い。また情報が行き届かず潜在的な要支援者がいる可能性がある。

(3) 現状 全域

担当地域の高齢化率は町名ごとに 23.8%から 31.1%まで開きがあり、入れ替わりの多い地域ほど高齢化率が低く、集中的に開発された地域ほど急激な高齢化が進んでいる。これまで「南成瀬中学校ステップルームの支援」や「ストリートミシンの子に知識・技術を伝えるボランティア」などの貢献の場が把握されている。

【課題】

どのような活動にニーズがあるのかなどを引き続き把握する。そのニーズを元に高齢者が地域に貢献できる活動の場を把握していく必要がある。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		一人のリーダーに頼らない介護予防活動の推進					
計 画	目標						
	既存の介護予防活動の場の把握と周知を通し、活動ニーズのある南成瀬1～3丁目付近の住民がいずれかの活動を実施している状態を目指すとともに、1人のリーダーに依存しない持続可能な介護予防活動体制を構築する。						
	2025年度の取組						
	南成瀬1～3丁目では、住民の主体的な参加を促進するため、各種講座や介護予防サポーター養成講座の実施に向けて企画を見直し、近隣の介護予防サポーターや自治会と連携し行っていく。新たなサポーターは地域活動団体の参加者として活動の促進に協力することで、一人のリーダーに依存しない持続可能な介護予防活動体制を構築する。同地域住民のニーズにあった形で進むことで主体性と継続性を保ち、自助・互助による健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指す。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
					○		
	活動指標						
	① 実施する講座のテーマ設定に向けた住民アンケート ② 近隣に住む介護予防サポーターや住民の介護予防サポーター交流会企画会の参加者数 ③ 一人のリーダーに依存しない介護予防活動団体の立ち上げ支援 ④ 介護予防サポーター養成講座後地域活動につながった人数						
	目標値			① 50件、②10名、③1回、④5名			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		認知症サポーターの養成による見守り・相談体制の構築				
計 画	目標					
	同地域の相談がセンターにつながりやすくなるよう、見守り及び相談機能を備えた認知症サポーターを増やし、住民間の関係性を維持につなげていく。					
	2025年度を取組					
	認知症や精神疾患のある方に対する理解力の向上を目指し、団地住民向けに認知症サポーター養成講座を実施する。住民間の関係性が維持されることにより、不安や過度なストレスの発生を予防し、疾患の悪化を抑制する効果も期待できる。					
	また、センターとの連絡が気軽にできるようにし、住民の実態把握を進めていく。					
	見守り連絡員・協力員の登録につなぎ、継続的に話し合える関係性を構築する。現在のニーズを聞き取り、将来の生活上のリスクを想定し、介護予防の取り組みの推進と合わせて住民同士の支え合いの基盤を整える。					
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携
	○	○	○	○		
活動指標						
① 認知症サポーター養成講座の実施回数						
② 見守り連絡員・協力員の登録人数						
③ 団地内の生活上のリスクに関する話し合い開催数						
目標値			① 2回、②10名、③2回			
実績値						
実 績	2025年度の成果					
	2026年度に向けた課題					

取組名(3)		生きがいとなる活躍・貢献できる場をつくる(継続)					
計 画	目標						
	地域の高齢者自身や家族が、近隣の様々なことの役に立つ存在だと感じ、生活ができるようになる。また地域の困りごとを抱える人・企業等が地域の高齢者に助力を求められるようになる。						
	2025年度の取組						
	引き続き、担当圏域内における社会参加・社会復帰の場をリサーチし、地域高齢者とのマッチングと、活動が軌道に乗るまでの間、伴走的支援を実施をする。 貢献の場の把握を推進する必要がある。人によって年1回のイベントなど単発な場が良い方、継続的な場が良い方、定期的な開催が合う方などニーズは異なるため、多様な貢献の場の把握ができるようにしていく。 ストリートミシンの場は高齢者ではなく母親世代のつながりの中で実施する情報を得たことから、SNS などの活用を推進し、若い世代との情報交換ができる体制を強化していく。「住民とともにつくる」場づくりについて、センター主導となり過ぎないように、地域診断の充実と、地域ネットワークの構築、貢献の場とニーズの把握を進めていく。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
		○	○	○	○		
	活動指標						
	① 社会貢献の場の情報把握数 ② 社会貢献活動を求める方のニーズ調査件数 ③ 社会貢献の場と社会貢献を求める方のマッチング数						
	目標値			① 10件、②20件、③5件			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度南第3高齢者支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 担当する地域の現状と課題

担当する地域の現状と課題の中から、特に重要であるものを3点記載してください。

(1) 現状

支援センターが関わってきた地域の活動グループへの聞き取りでは、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、活動の継続に不安を感じている団体が多い。活動中の自主グループでも、生活支援などを行う地域の活動団体でも、高齢化に伴う担い手不足で、既存の会員の退会や新規加入者の減少が続いており、活動継続への不安や危機感を訴える声が増えている。

【課題】

既存の活動団体の構成メンバーの高齢化と次の世代の加入者不足、担い手不足に伴い、活動の先細りリスクが高まっている。

(2) 現状

高ヶ坂地区では、相談者に情報提供できる活動グループが従来から相対的に少ない。昨年度、公社住宅エリアで新たに1グループが発足したものの、主要メンバーの転居や参加者の減少により、老人会の解散が相次いで2件報告された。運営の中心メンバーが退会したり、一人で複数のグループを支えていたりした影響で、複数のグループが活動休止を余儀なくされた。

【課題】

高ヶ坂地区において老人会2件の解散に伴い、活動の場や参加の機会が明らかに減少している。

(3) 現状

これまでの取り組みや総合相談の中で、高齢者が必要とする情報が十分に届いていないとの声が多かったことから、従来の紙媒体での情報発信に加えて、電子媒体での発信にも注力してきた。スマートフォンのLINEアプリの活用など、高齢者のITリテラシーは着実に向上しており、当センターのホームページの活用例も少しずつ増えている。一方で、ホームページのアクセス解析の結果や、日頃の相談業務の中での住民の声からは、やはり紙媒体での情報発信、さらには直接対話を通じた発信も並行して行っていくことが求められている。

【課題】

高齢者が暮らしの中で必要とする情報が十分には届いていない。

2 課題解決に向けた重点的な取組

課題を解決、もしくは強みを強化するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名(1)		既存の活動団体の先細りリスクへの支援					
計 画	目標						
	新しいメンバーやアクティブシニアが既存の活動に参加して、自主グループや自治会、地域の活動団体の活動が活発になり、楽しみとやりがいを感じながら続けられる。						
	2025年度の取組						
	①自主グループ情報交換会を開催して、運営上の課題と工夫を共有する。						
	②活動継続への不安が強いグループを抽出して、広報その他の支援をする。						
	③地域の各活動団体に介護予防月間地域型イベントへの参加を呼びかけて、団体同士の交流、情報交換を促すことで、活動の活性化を支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
	活動指標						
	① 自主グループ交流会開催回数						
② 広報したグループ数							
③ 介護予防月間地域型イベントへの参加団体数							
目標値			① 1回 ② 10グループ ③ 6団体				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	(目標に対して、2025年度にどこまで達成できたか、成果を記載してください。)						
	2026年度に向けた課題						
	(2025年度の成果を踏まえて、目標達成のために課題となることがあれば、記入してください。)						

取組名(2)		高ヶ坂地区での活動の場、参加の機会の創出					
計 画	目標						
	地域住民が自宅近くにある通いの場や、自分の興味関心、趣味、やりがいや生き方に合った活動に参加することができる。						
	2025年度を取組						
	①高ヶ坂地区で活動してきた個人・団体への聞き取り調査を実施して、生活課題やニーズを把握する。						
	②自治会や老人会などと協働して、高ヶ坂地区での新たな通い場作りを支援する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
				○	○		
活動指標							
①高ヶ坂地区の個人・団体への聞き取り件数							
②高ヶ坂地区での新たな通い場の立ち上げ件数							
目標値			① 30件 ② 1件				
実績値							
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

取組名(3)		紙媒体と電子媒体の両輪での情報発信の強化					
計 画	目標						
	暮らしの中での困り事や不安、興味関心のあることに関する情報が、必要としている人に届く機会を増やし、自ら必要な情報を取得できる人が増える。						
	2025年度の取組						
	①自宅の住み開き、店舗の空きスペース開放による活動事例集を作成して、紹介する。 ②自治会や福祉施設等、街中の掲示板の存在をさらに周知できる新たな取り組みを検討し、実践する。 ③支援センターのホームページを活用して情報提供を行った専門職への聞き取り調査を行い、電子媒体の発信方法の改善に向けてニーズを把握する。						
	当てはまる分野全てに○	見守り	認知症	生活支援	介護予防	医療介護連携	権利擁護
	○	○	○	○	○		
	活動指標						
	①紹介事例件数 ②周知のために実践できた取り組み件数 ③専門職への聞き取り調査件数						
	目標値			① 5件 ② 3件 ③ 30件			
	実績値						
実 績	2025年度の成果						
	2026年度に向けた課題						

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)

2025年度医療と介護の連携支援センター重点事業計画書兼報告書

以下の項目について、町田市地域包括支援センター運営方針を踏まえて記載してください。

1 町田市の現状と課題

センターとして考える町田市における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題を記載してください。

(1) 現状

地域ケア推進会議において、医療機関を選定する際に、利用者や専門職が必要な情報に辿り着けておらず、医療機関を適切に選定できていない現状を把握した。また、専門職がかかりつけ医がない利用者等に対し、医療面からの判断がないまま、専門の医療機関を選定している現状を把握した。

専門の医療機関を適切に選定するには、普段の医療状況を知るかかりつけ医の判断が起点となり、専門医療の利用につなげることが望ましいが、市民や専門職の間では、かかりつけ医の役割とその必要性に対する理解が進んでいない現状がある。

【課題】

高齢者、その家族、支援者において、かかりつけ医の役割や必要性の認識が不十分であり、かかりつけ医療機関を持つ習慣が浸透していない。利用者本人の既往歴や普段の状況を把握しているかかりつけ医がないことにより、利用者等は自身がかかるべき専門的医療機関等の情報にたどり着けておらず、スムーズな専門的医療機関の受診に繋がっていないという課題がある。

(2) 現状

医療と介護の連携を推進する役割を持つ当センターとして、三師会に所属する医療機関との関係性構築が必要不可欠である。そのため医療機関へ積極的に訪問を行い、コミュニケーションを図ってきた。訪問による関係構築を図ることで、相談件数および全体における医療機関からの相談比率は年々増加している。

【課題】

三師会を中心とした医療機関との関係構築において、総合相談の傾向から分析を行った結果、医療機関全体の相談比率は増加傾向にあるが、歯科医師会所属の医療機関からの相談件数が少ないことが分かった。歯科医師会所属の医療機関の訪問実績も少ないため、歯科医師会所属の医療機関とのより顔の見える関係性を構築する必要がある。

(3) 現状

認知症疾患医療センターとかかりつけ医との連携について課題整理を行った結果、専門職がかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携に関する知識を得られる機会が少ないという現状を把握した。

【課題】

専門職が、かかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携に関する理解が不十分であるため、かかりつけ医の判断を経ることなく専門医療への受診を案内してしまうという課題を把握している。また、認知症疾患医療センターが市民や専門職からかかりつけ医にされてしまい、治療後に地域のかかりつけ医に戻すことができないという課題が生じている。

2 課題解決に向けた重点的な取組

「1」の課題を解決するため、重点的に取り組む内容について記載してください。

取組名①		地域ケア推進会議を活用したかかりつけ医療機関普及への取り組み	
計 画	目標		
	高齢者が、住み慣れた地域で望んだ医療を受診できるよう、いつでも自身に必要な医療機関の情報に辿り着き、専門的医療機関の受診が必要となった際には、かかりつけ医を通じてスムーズに適切な医療機関に受診することができる体制を構築する。		
	2025年度の取組		
	三師会及び地域の専門職と協働し、高齢者や専門職がかかりつけ医の役割や必要性を認識し、より多くの高齢者が地域でかかりつけ医を持つための取組を検討する地域ケア会議を開催する。		
	活動指標		
	かかりつけ医をテーマとした地域ケア推進会議の実施回数		
	目標値	地域ケア推進会議(テーマ:かかりつけ医) 年2回の開催	
実 績	実績値		
	2025年度の成果		
	2026年度に向けた課題		

取組名②		医療機関と連携協働を図れる体制の構築	
計 画	目標		
	医師会・歯科医師会・薬剤師会に所属する医療機関を中心に訪問を継続し、当センターおよび高齢者支援センターの周知活動を行い、顔の見える関係を目指す。これにより、三師会を中心とした医療機関とのさらなる連携や協働体制の構築を推進する。		
	2025年度の取組		
	医療機関と連携協働を図れる体制作りを目指し、引き続き訪問と広報活動を継続する。今年度は歯科医師会会員への訪問を重点的に行い、顔の見える関係の構築を行う。また、歯科医師会事務局と連携し、計画的な広報活動を展開する。医師会、薬剤師会においてもこれまでの活動による顔の見える関係を活かし、継続した連携を図る。		
	活動指標		
	歯科医師会所属医療機関への訪問件数		
		目標値	年間 50 件以上
実 績		実績値	
	2025年度の成果		
	2026年度に向けた課題		

取組名③		認知症疾患医療センターと協働した専門職向けセミナーの実施	
計 画	目標		
	専門職がかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割や連携についての知識を深め、高齢者に適切な医療機関の案内を行うことにより、認知症の方が適切に医療を受けながら望んだ地域で生活ができる体制の構築を図る。		
	2025年度の取組		
	専門職にかかりつけ医と認知症疾患医療センターのそれぞれの役割と連携について理解してもらうため、認知症をテーマとした多職種連携協働強化セミナーを開催する。		
	活動指標		
	セミナー参加者のアンケートに基づく満足度		
		目標値	「セミナーに出席して良かった(役立った)」に対して「そう思う」という回答が70%以上。
実 績	実績値		
	2025年度の成果		
	2026年度に向けた課題		

3 市のコメント

(今年度の取組に対して、市がコメントを記入します。)